平成２０年９月２９日

# 手をつなごう2008

岡山県立東備養護学校
支援部だよりNO．１２

# 公開講座報告④

## 講座４：発達障害児の保護者支援
## ―幼児期を中心に

＜講師＞兵庫教育大学講師　嶋崎まゆみ氏

皆さんの熱い要望にお応えして、今年も嶋崎先生に講師をお願いしました。３１８名の参加申込をいただきました。期待どおりの分かりやすく暖かいお話で、「2 学期からも頑張ろう！」という気持ちがわいてきました。

感想の一部をご紹介します。

・今自分が担任しているクラスの子の姿が思い浮かぶ事例がありとても勉強になりました。外に飛び出してしまい，加配の先生についてもらい外で遊ぶことが多い１学期でしたが，今日の講演を聴いて「保育室で遊ぶ方が楽しいよ」と思える配慮がいることを学びました。２学期からの園生活に今日の講演を活かそうと思います。
・よくあるような事例，保護者の方のタイプ別でのお話をいただけ，とても分かりやすかった。がんばるけれど無理はしなくてもいいよという先生のお話が，温かくありがたく感じた。幼児期に気づくことが大切だと言われている中，その子の一生涯かけての対応の仕方を考えていくものだという言葉が一番心に残った。
・理想と現実との違い。勉強で分かっているつもりでも保育現場では何もできず，どうすればよいのかと思っていたのですが，タイプ別の話がたくさんあり自分に重ねながら聞くことができました。お父さんの支援は確かに視野になかったので本を読んで勉強しようと思います。
・嶋崎先生のお話を聞くといつも明るい気持ちになります。とにかくその子がどんな子？どんな行動をとってるの？をよく見ること，そこからその子へのより良い支援策が見えてくるという基本中の基本を大切にしてかかわっていきたいと思います。
・先生のご講演を毎年楽しみにしています。本当に具体的で「そこを教えてほしかったんだ！」ということをどんぴしゃりとお話ししてくださってありがたいです。来年も楽しみにしています。先生のお話を聞くと，２学期からもがんばれそうです。
・私は幼稚園にも勤めていたので園を中心にした対応，とても参考になりました。とくに作品を持って帰りたいと言ったＤくんＥくんのケースのように「特性に合わせた異なる支援」がいかに大切かということと，こちらの発想の豊かさや見る目の確かさをみがくことがいかに必要かということが心に残りました。
・障害を受容することが、保護者にとってはどんなに難しく時間のかかることかが改めてよく分かり，保護者支援の大切さが身にしみて分かった。具体的な分かりやすい話でよかった。支援を過剰に期待しすぎる保護者の心理と対応など，とても参考になった。
・自分の努力で何かが改善されるならきっと何でもするだろうし乗り越える力もわくだろう。けれどいつまでもそしていつも抱えていかなければならない苦しみや悲しみは「本人の死の受容」とは全く別ものであると思う。自分のことなら我慢できることでも，我が子ましてや母親と子どもという関係の中では癒されること，乗り越えられることはないと思う。自分の死を迎えてさえも残される子どもへの心配を抱えている。そんな不安や苦しみはおそらく当事者家族でなければ完全に理解することはできないだろうが、想像をめぐらして各機関の方がかかわって下さればかなり楽になり，パワーをふりしぼってまたがんばれる気がします。